

町立病院新任医師の紹介

4月から小鹿野中央病院に赴任された先生をご紹介します。

内科医長 藤田和樹 先生

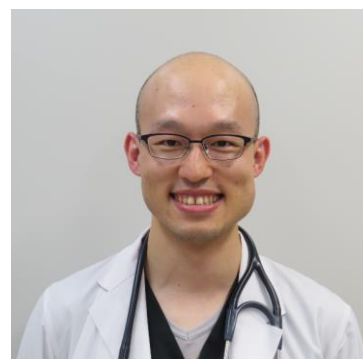
小鹿野の皆さん、はじめまして。4月から参りました内科の藤田和樹と申します。前任地は秩父市立病院で、2年間勤務しました。小鹿野にはダリアを見に来たり、わらじかつを食べに来たりしたことはありますが、既に色々と面白そうな所を幾つも聞いているので、これから巡るのが楽しみです。祭りや歌舞伎も見に行きたいと思っています。学生の時に魅力に感じた町民との近さ、医療と福祉の連携などはこれまでに他の地域では見たことがない程、密なものだと改めて感じています。町立病院は自治医大の学生の時から将来働きたいと思っていた病院だったので、こうして勤務することができたことは感慨深いです。

個人的なことですが、私は愛知県名古屋市に生まれ、石川県金沢市に移り、小学校3年生からは埼玉県上尾市で暮らし、大学時代は栃木県下野市にいました。部活動はバスケットボール、吹奏楽、柔道と

様々なものに手を出し、どれも身に付きませんでした。楽しかった思い出です。研修医時代に出会った看護師の妻と1年前に結婚しました。趣味は読書で、色々なジャンルの本が好きです。おすすめがあれば是非教えてください。

最後に、私の名前である《和樹》には、《たくさんの友達の「和」する場所としての、大「樹」のような子に育つように》という両親の願いが込められています。命名した両親の思いにこたえられているかはわかりませんが、この町立小鹿野中央病院でそのような存在に近づけるように、努力していきたいと思っております。

これからよろしくお願ひいたします。



内科医員 荻野太郎 先生

はじめまして。この度町立小鹿野中央病院へ配属となりました、自治医科大学39期で医師3年目の荻野太郎と申します。

私は町立病院に自治医科大学生時代に2度ほど研修でお世話になったことがあります。そのときの印象は、「この町の人は何てパワフルなんだろう！」というものでした。町民の皆さんが一人の患者さんのために団結・協力して介入していく様は勇ましくも感じました。また、その時自分が自治医大生としてこの町の医療を担っていく責務の重さを再確認したことも記憶に新しいです。

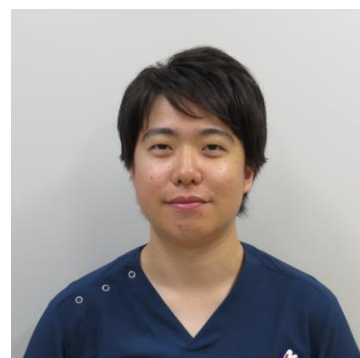
そして今年からいよいよ常勤となるにあたり、自分が病院・町のためにできることは何かと考えたとき、大きく2つの目標が浮かびました。

まず一つ目はここ小鹿野において“日本・もしくは世界の標準的レベルの治療を提供する”ことです。現在医学はインターネットの普及とともに日々新たな病気の報告や治療法の開発が行われ、膨大な情報があふれています。以前の医学では教科書に記載されていることが正しいこととして扱われていたが、現代医学においては患者さんに良い結果を与えることがデータで確認されていないと、いくら有名な教科書に記載されていることでも正しくないと扱われます。私が日々日本・海外の知見に目を通し、

新しい情報にアクセスすることで日常の診療の向上につとめ、みなさんの健康に貢献できればと思っております。

二つ目は長期的な目標になりますが、“医師不足からの脱却”です。これは小鹿野のみならず日本全国で問題となっていますが、特に埼玉県では患者数に対する医師不足が顕在化しています。そしてその原因として、医師の偏在化も大きく寄与していると考えられます。では、医師はどのように病院を選ぶのか？ですが、ほとんどの医師が「人間関係とキャリア」で病院を選定しています。自分にゆかりのあるスタッフが多くいる病院に行く医師、指導医と設備が整っている病院に行く医師が大多数を占めます。現在当院では内田院長をはじめとした緩和ケアの充実化が着々と進行しており、秩父市やその外からも小鹿野への注目の目が集まり始めています。この追い風によって町立病院が“医師が自然と集まる病院”となってくれるよう私も尽力していきたいと思っております。

皆様との町づくりの一員となれるよう尽力していきますので、よろしくお願ひいたします。



⑬ 《 山笑う・・・みなさんは？ 》

新緑のまぶしい季節になりました。山が笑っていますね。職場や環境が変わった方、ご家族が進学や就職などで新生活を始められた方、なんにも変わらず歳だけとった方、いろいろだと思えます。皆さんはいかがでしょう？

去年は主に認知症の話に掲載してまいりました（途中からはあやこさんとのぶえさんの物語のようになりましたが・・・）。しかし今回からは特にテーマも決めず、私が日常の中で感じたことを綴っていきたいと思います。時々のおぶえさんとあやこさんにも登場してもらいましょう。

さて、先日あるテレビを見ていると『わけあり記者』というタイトルで中日新聞の記者である三浦耕喜さんを取り上げた特集が放送されていました。認知症のお母さんを介護する三浦さんは、現在パーキンソン病を患い身体が不自由でした。気になって三浦さんのことを調べてみると、記者として一線でバリバリ活躍していましたが、過労でうつ病を患い、5カ月間仕事を休んだこともあったようです。そんな三浦さんのお母さんは、認知症が進んだ最近ではついに息子のことも忘れ、彼の名前を呼んでくれなくなったというのです。三浦さんは、「これまで母は何万回と私の名前を呼んでくれていた。それに対して自分がしっかりと答えてきたのか。投げやりな返事をしたこと、無視したこともあったかもしれない。

そんな母が今は私の名前を呼んでくれない。でも、私は母のことを覚えているから大丈夫」と笑顔で話されていました。うつを発症したことがあり、母を介護し、パーキンソン病を患っているという、とっても大変な状況にある三浦さんの笑顔を見て、笑っていたいなと思ったことでした。つらくて苦しいときにも笑顔、大事なこともかもしれません。

実際「笑い」には様々な効果があります。笑うことでストレスから解放されますし、免疫力が上がることも知られています。さらには認知機能の改善に関連するだとか、生活習慣病予防になるかもしれないという報告もあります。（ちなみに生活習慣病については「広報おがの」にシリーズで掲載することにしました。少しかたい文章ですが、そちらもどうぞよろしくお願いします。）

「何を笑うかで人間がわかる
なんでも笑えば人間が変わる」
（斉藤茂太：精神科医・作家）

「覚えていて悲しんでるより
忘れて微笑んでいるほうがいい」
（クリスティーナ・ロセッティ：英国の詩人）

今の季節、山が笑っているように、皆さんの心も笑えるといいですね。

院長 内田 望



外来からのお知らせ

平成30年4月25日現在

休診

眼科：5月 1日（火）竹内大Dr.
総合診療科：5月 2日（水）伊藤Dr.
（5月2日の総合診療科は当日の担当医が診察します。）

変更

眼科：5月 2日（水）櫻井Dr.→竹内礼Dr.
眼科：5月 5日（土）→5月12日（土）水川Dr.
整形外科：5月25日（金）関口Dr.→吉原Dr.

※総合診療科は、待ち時間の解消のため、当日受付枠を設置しました。
但し、医師の指定はできませんのでご了承ください。



〈発行〉 国保町立小鹿野中央病院 〒368-0105 埼玉県秩父郡小鹿野町小鹿野300番地

電話 0494-75-2332 FAX 0494-75-3313

〈ホームページ〉 「国保町立小鹿野中央病院」で検索、または「小鹿野町」のホームページからどうぞ。